

第2回J-STAGEセミナー

2018年10月31日・JST東京本部別館（K's五番町）1階ホール

日本細胞生物学会誌  
Cell Structure and Function の  
CCライセンス化への取り組み

日本細胞生物学会 会長

Cell Structure and Function 編集長

大野 博司

（国立研究開発法人理化学研究所）

# 日本細胞生物学会

生命の基本単位である細胞について研究する者の集まりとして1950年に日本細胞化学会として発足し、1964年に日本細胞生物学会に改称

学会の目的は、細胞生物学分野の研究成果の公開、情報共有を行うことで、細胞生物学の発展に貢献すること

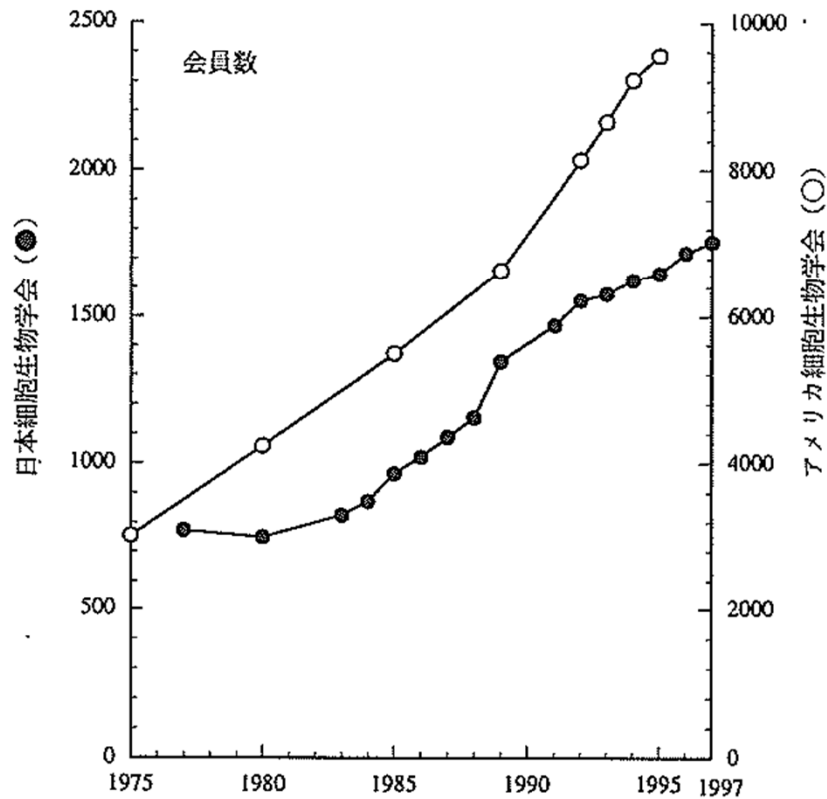
学会誌として *Cell Structure and Function* を刊行（1975年～）

会員は基礎医学・理学・工学・薬学など幅広い分野の研究者

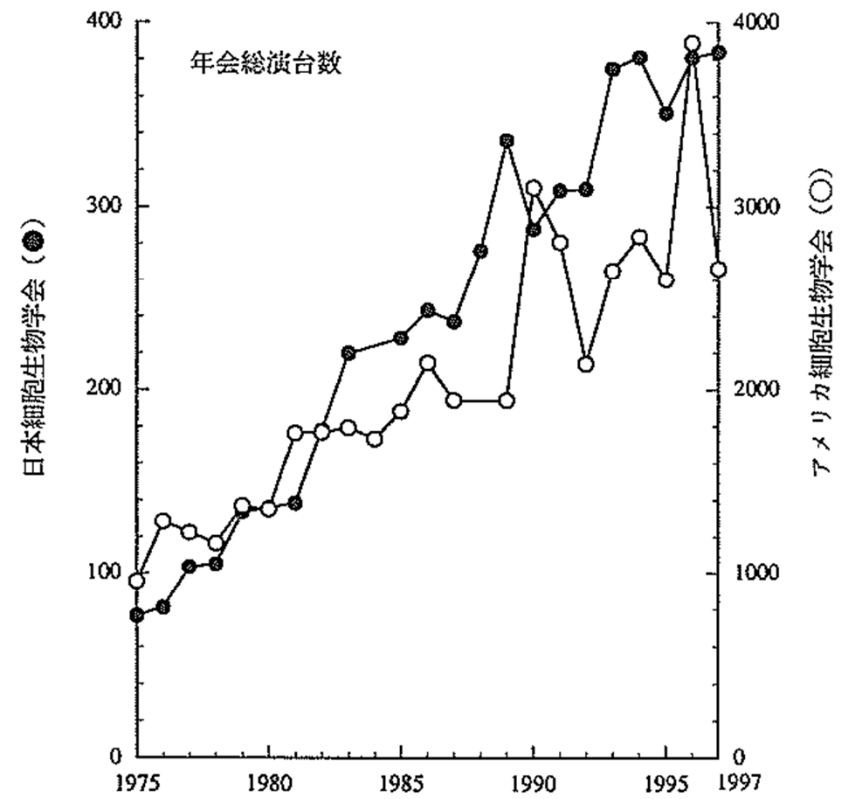
会員数：1,248名（正会員943名、学生会員296名、その他9名）（2018年9月現在）

2014年9月に一般社団法人に移行

# 会員数及び演題数の推移

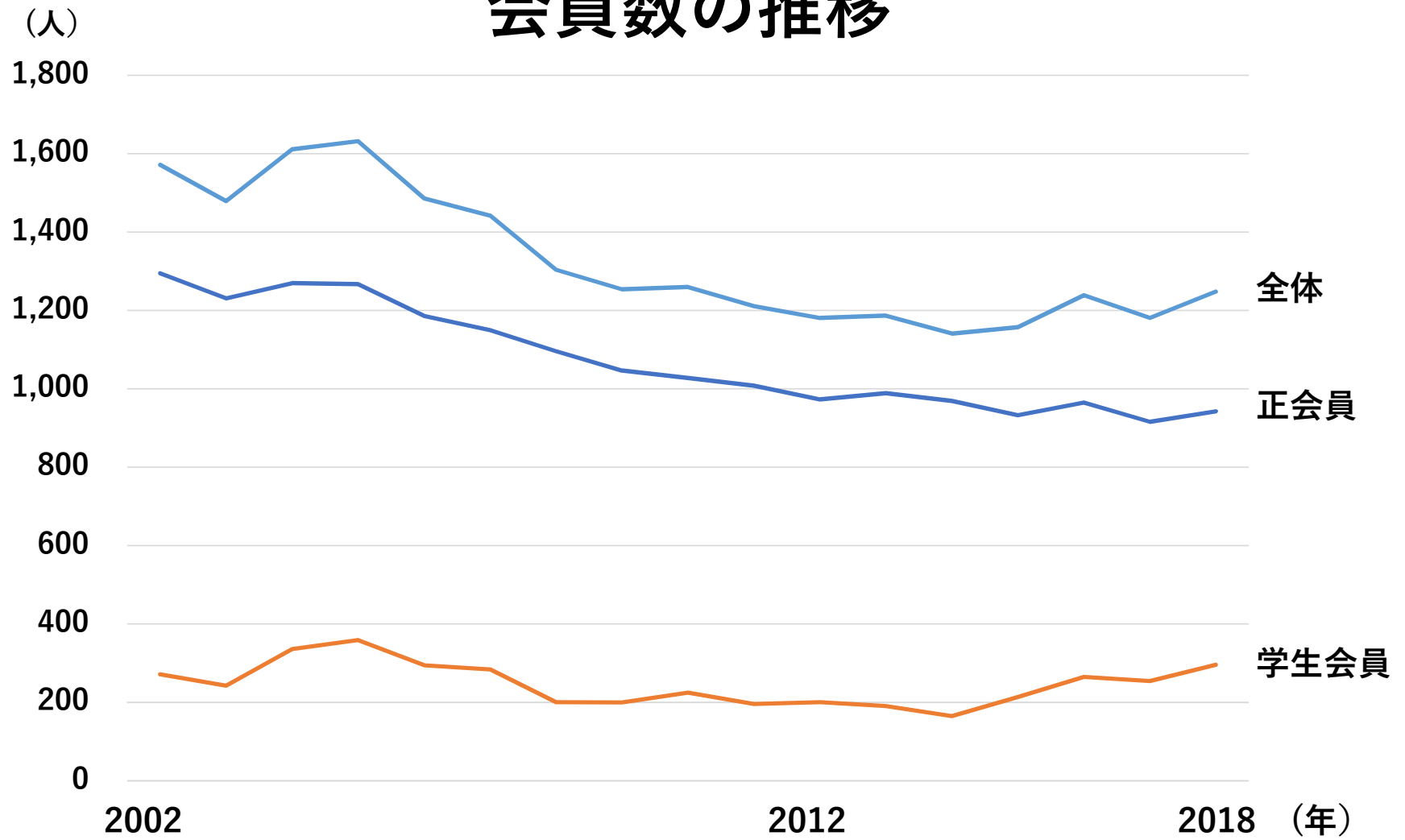


日本細胞生物学会およびアメリカ細胞生物学会  
会員数の変遷



日本細胞生物学会およびアメリカ細胞生物学会  
における演台数の変遷

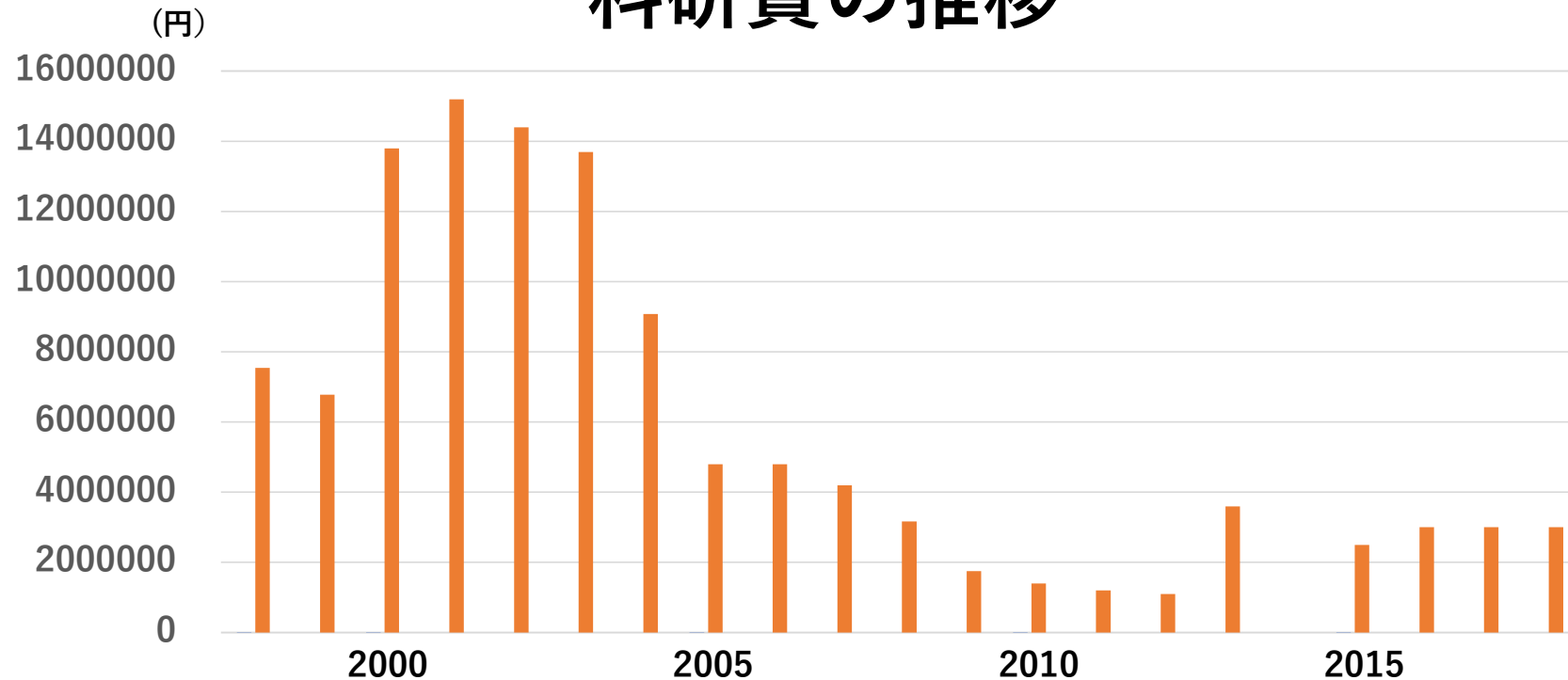
# 会員数の推移



# Cell Structure and Function (CSF)の歴史

- 1975年 日本細胞生物学会の英文誌としてスタート  
日本学術会議の登録学術団体となるために定期刊行物を発刊する必要があった  
1巻（1975-1976年）～11巻（1986年）までは季刊、その後隔月間（～2004年）
- 2005年 電子ジャーナル化（誰でも無料閲覧可能）  
冊子体刊行の学会本体への財政的負担が主要因
- 2006年 オンライン投稿・査読システムの開始（ScholarOne）

# 科研費の推移



- ～2004年度まで 「学術定期刊行物」
- 2005～2008年度 「学術誌データベース」
- 2009～2012年度 「学術定期刊行物」
- 2013年度 「国際情報発信強化」 単年度採択
- 2014年度 不採択
- 2015年度 「国際情報発信強化」 単年度採択 250万円
- 2016年度 「国際情報発信強化」 単年度採択 300万円
- 2017年度 「国際情報発信強化」 5年間（2017～2021年度）で内定

# Cell Structure and Function (CSF)の歴史

- 1975年 日本細胞生物学会の英文誌としてスタート(掲載料なし)  
日本学術会議の登録学術団体となるために定期刊行物を発刊する必要があった  
1巻(1975-1976年)～11巻(1986年)までは季刊、その後隔月間(～2004年)
- 2005年 電子ジャーナル化(誰でも無料閲覧可能)  
冊子体刊行の学会本体への財政的負担が主要因
- 2006年 オンライン投稿・査読システムの開始(ScholarOne)
- 2014年 掲載の有料化(1編10万円)

# Cell Structure and Function (CSF)の改革

- 投稿数を増やしたい

国内・アジア圏のみならず欧米からの投稿にも対応できるようにする

← 欧米の公的研究費での研究成果は、ゴールドオープンアクセスが義務付けられている

- 2016年 ゴールドオープンアクセス化 (CC-BY) (10月投稿分より)

投稿規定などの大幅な見直し・改定

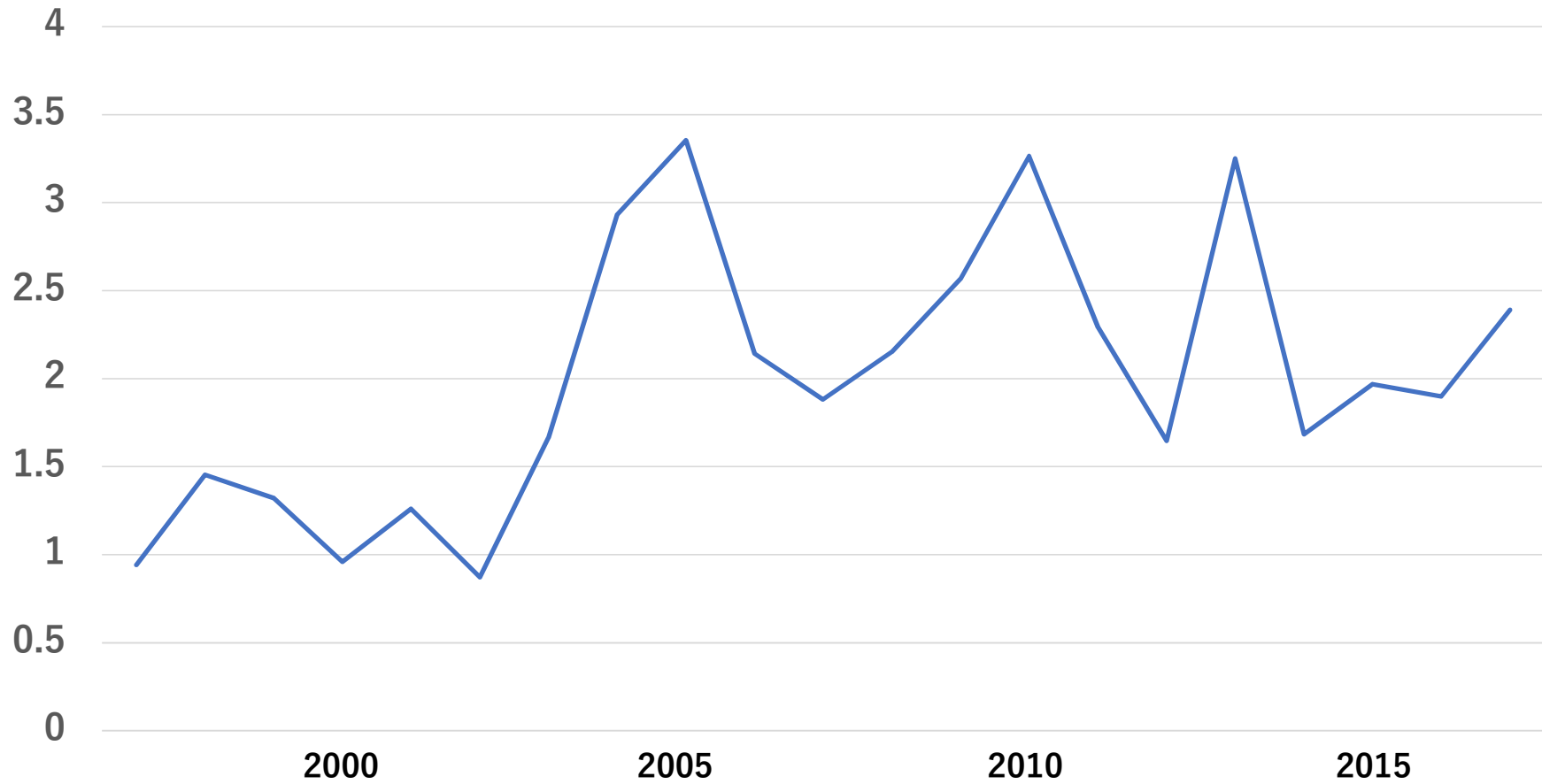
掲載料 → オープンアクセス・フィー (名称の変更。価格は据え置き)



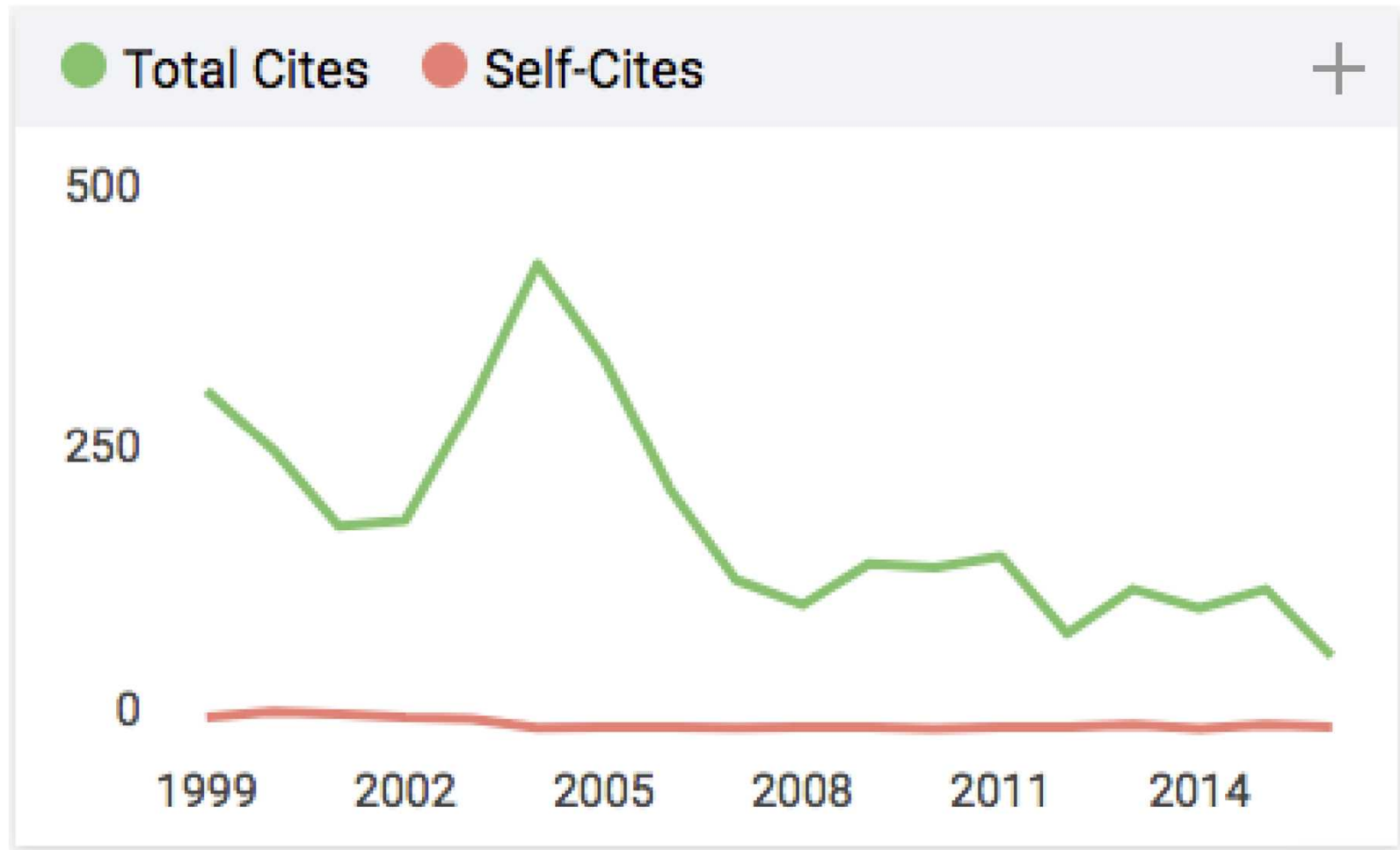
# Cell Structure and Function (CSF)の改革

- インパクト・ファクターへの取り組み  
CSF論文賞、大会での若手優秀発表賞受賞者への総説投稿のお願い  
→招待論文についてはオープンアクセス・フィーはかからないよう配慮
- ジャーナルのホームページを改訂  
英語のページの充実
- 個人情報保護に関する配慮  
現状では学会員に限定した個人情報保護の規程（日本語のみ）  
→ CSFの投稿者など学会員以外も対照とした英文の規程を検討中

# インパクト・ファクターの推移



# 引用数の推移



# 投稿数の推移

2012	34編
2013	23編
2014	17編 (10月より掲載料有料化)
2015	15編
2016	23編
2017	26編
2018	31編 (10月末現在)